

## 人形劇図書分類のための試案

### P: 人形劇

- P0 人形劇総記
- P1 伝承人形劇
- P2 人形劇史・各国の人形劇
- P3 国内の現代人形劇
- (P5) 演出法・舞台
- (P6) 人形(美術・操法)
- P7 指導法・人形劇教育
- (P9) 人形劇の戯曲
- PZ 人形劇の逐次刊行物
- D 戯曲
- d 台本

### P0: 人形劇総記

- .1 理論
- .3 書誌、辞典、便覧、名簿
- .4 論文、講演集、評論、雑著
- .5 逐次刊行物、年鑑  
※年鑑(一年周期以上も含む)以外は  
→PZに別置した方がよい
- .6 学会、団体、会議  
(博物館の所蔵・出陳→PO.8)  
(博物館の図録は→PO.8)
- .7 研究
- .8 双書、全書、合書

## P1: 伝承人形劇 (国内)

※ここには原則として明治期までに発生、伝承される人形劇を収める。

- .1 人形浄瑠璃、文楽
- .2 (人形)浄瑠璃史
- .28 太夫、人形使い、(三味線)、
- .3 人形師の伝記、列伝
- .4 浄瑠璃
- .5 舞 台
- .6 人 形
- .8 からくり人形 (芝居)
- .9 郷土の伝承人形劇 (日本地方区分)

※ここには、浄瑠璃の作者、作品、その研究などを収める。

(作品はD1.4、床本はd1.4に収める) 近松門左衛門も、もちろんここに収める

## P2: 人形劇史、各国の人形劇

- .1 日本の人形劇史

※文楽史・浄瑠璃史は→P1.2

.20-.70 (地理区分)

- .8 人形劇人の列伝 (地理区分)

個々の伝記及び評論は、国籍により P2.1～.7に収める。

文楽はP1.28に収める。

## P5: 演出法・舞台

## (P6) 人形(美術)

## P7: 指導法・人形劇教育

※幼児のための人形劇、学校劇、指導法、教育、初心者のための人形劇教本などを収める

### .9 脚本集

(脚本が全体の3分の2以上占めるものはここに)

※上演のために書かれた脚本集で、演出法についているものは、ここに収める

## (P9) 人形劇の戯曲

※ここには研究、理論を収める。

作品(集)は、Dに収め、赤ラベルで他のジャンルと区分する。  
台本はdに収める。

### .1 理論、作法

### .2 戯曲史、批評

### .3 書誌、辞典、便覧、名簿

### .4 論文、講演集、評論、雑著

### (.5) 逐次刊行物、年鑑

### .6 学会、団体、会議

### .7 研究、指導法、教育

### (.8) 叢書、合集

## 【付表】 人形劇研究所 図書分類表

P 人形劇(前記のとおり)

T 演劇・映画(細目1ケタまで)

T0 演劇総記

T1 劇場、演出、演技

T2 演劇史、各国の演劇

T3 能楽、能狂言

T4 歌舞伎

T5 各種の演劇

T6 舞踊、舞踊劇、バレエ

T7 児童劇、学校劇

※学生劇はT5.7に残す。

T8 映画

T9 大衆演芸

D 戯曲(言語区分)

D0 戯曲総記

D1.1 日本戯曲

D1.2 舞の本

D1.3 謡曲・狂言

D1.4 浄瑠璃

D1.5 歌舞伎

D1.6 近代戯曲

D1.7 シナリオ・放送ドラマ

D1.8 児童劇

D2.0 D2.0 中国戯曲

D3.0 D3.0 英米戯曲

D4.0 D4.0 ドイツ戯曲

D5.0 D5.0 フランス戯曲

D6.0 D6.0 スペイン戯曲

D7.0 D7.0 イタリア戯曲

D8.0 D8.0 ロシア戯曲

D9.0 D9.0 その他の諸国の戯曲

※細目はD1のごとく時代区分をする

例えば、D2.5元曲の如く。

d 台本

※Dの如く地理区分をする。

Z0.0 逐次刊行物

※(言語区分)する。(この項は、まだ十分に検討が尽くされていないので、単にNDC規則を準用した)

R 参考図書

K 川尻泰司著作・掲載誌

(N) 所員著作・掲載誌

000 総記 (2次区分まで)

100 100 哲学 (2次区分)

※164神話.神話学のみ3次区分とする。

200 200 歴史.地理 (3次区分)

300 300 社会科学

※360社会、370教育は(3次区分)までとする。

380風俗習慣・民俗学 (民族学・文化人類学)は (3次区分)の後細目1ケタまで

400 自然科学 (2次区分)

500 技術 (2次区分)

600 産業 (2次区分)

700 芸術 (2次区分)

800 言語 (2次区分)

900 文学 (2次区分)

参考:人形劇の記述のある図書は赤ラベル、人形劇以外には青ラベルで区分すれば、誤って処分されたりすることがさけられるだろう。